

2019年7月6日

令和元年度同窓会総会挨拶内容

1. ただ今、ご紹介いただきました同窓会会長の吉田俊雄です。本日は、梅雨空が続く鬱陶しい中を、またご遠方からも含め沢山の方々が本総会に足をお運び頂き誠にありがとうございます。経済学部経済学科、19回生、岡ゼミでクラブ活動は商業英語研究会（BEC）に所属しておりました。ご承知のように、昨年の総会において、二期目の会長に選任されました。今年度は役員改選時期ではございませんので二期三年の任期を終え二期四年目に入ることになりますので宜しくお願いいたします。
2. 同窓会活動の関連報告の前に、大学の現況について触れさせていただきます。総会後の懇親会の場で山寄学長のご挨拶がありますがいくつかのポイントについてご報告いたします。2015年度からスタートしたロンドン大学の経済学位が取得できる「パラレル・ディグリー・プログラム」も順調に経過し本年、2019年度には初の学位取得者が誕生できる見込みです。又一昨年、2017年度からスタートした人文学部の「グローバル・スタディーズコース」と社会学部の「グローバル・データサイエンスコース」も三年目に入り共に優秀な学生がグローバル教育に取り組んでおります。このような取組と伝統である少数教育・ゼミの武蔵とがあいまって年々大学の評価も上がってきています。結果として2019年度の一般入試志願者数は18,870人となり過去最高であった昨年比104%となっています。一方、在学生の収容定員比率が高かったため、昨年度に引き続き今年度も絞り込みを行ったので入学者数は1,019名となり学部在生数は4,726名となりました。

こうした流れの中、社会的ニーズに対応すべくグローバル教育を中核とした新しい学部「国際教養学部」設立の基本計画が承認され2022年設立に向け具体化することになりました。4学部となりますが小規模大学を維持するため学生総数はその範囲とします。

学生の就職状況についても大学のキャリア支援を中心に同窓生の協力も得て順調に推移し就職希望者の就職率は98.0%となっております。詳しくは、既にお手元に届いております「白雉たより」をご覧ください。

その他のトピックスをいくつかご報告します。昨年に引き続き1

0月には江古田の商店会と江古田の三大学が協力し練馬区の後援を得て「第二回の江古田音楽祭が一週間に亘り開催され大いに賑わいました。当武蔵の大講堂では二つのコンサートが開催されました。

運動部の関係では、硬式野球部が秋のリーグ戦では入れ替え戦に勝利し一部リーグを維持し、春のリーグでは帝京大学との最終戦に勝利し4位となりました。直近のニュースでは柔道部も奮戦し昨年に続き全国大会への出場権を獲得しました。二つの事例をだしましたが、他にもいろいろと頑張っている状況ですので機会がございましたら是非応援におでかけください。

教育関係では昨年の4月に19回生の金井一頼氏が青森大学の学長に就任したことに続き、今年度4月には27回生の江藤茂博氏が二松学舎大学の学長に就任されました。誠にありがとうございます、今後のお二方のご活躍を祈念いたします。

芸能関係でもたくさんの卒業生が活躍しておりますがここでお二方を紹介します。落語界では三遊亭好の助さんが昨年真打に昇進され大活躍をされています。また、講談界では「今、最もチケットの取れない講談師」といわれている神田松之丞さんは来年の2月に真打昇進が決定しかつ講談界の名跡である6代目伯山を襲名することになりました。

3. さて、同窓会活動についてですが、詳細についてはこの後、事務局よりご報告いたしますので、私の方からはいくつかのポイントについてご報告いたします。昨年の総会の時点でお話しした大学創立70周年記念事業については、大学と協議の上、同窓会主催・大学協賛の形ですすめることにしました。具体的には全国を9つの地域に分けそれぞれの地域で70周年をお祝いする地域別オールカミングの集いを企画し全国の支部と連携し実行することとしました。既に、5月には関西地区、6月には中国地区で開催されそれぞれ多くの方々にお集まりいただきました。当日は記念講演に加え、大学側に依頼し社会学部永田教授プロデュースによる記念映像「武蔵大学今昔物語」をご覧いただき昔懐かしい映像から大学の変貌ぶり、江古田周辺の変遷をお楽しみください。これからの地域については7月から11月にかけて随時ご案内をお届けしますので多くの方々の参加をお願いいたします。
4. 次に土曜講座ですが、今年度も3回の開催を行い、どの会も興味深いテーマを大学側の講師と大学同窓会、高校同窓会からの講師それ

それぞれにご講演をいただき大変に好評でした。7月に行われた「朗読を楽しむ」では村松真貴子講師の素晴らしいお話しに加え元同窓会会長の日暮道生氏のプロ裸足のゲスト朗読が印象的でした。土曜講座については今年度も継続していきますが、大学側と協力し魅力あるテーマに取り組んでいきたいと思っております。

5. 同窓会活動の中でも中核をなす地方支部では支部総会開催が昨年度と同様35支部にも及び、ますます活発に活動を継続しております。各支部の集まりでは、2019年度に実行する「70周年記念地域別オールカミングの集い」への協力を要請しました。
6. 同窓会の準会員である現役学生への支援活動ですが、本部内の準会員部会が中心となり様々な支援活動を実施しております。地方学生奨学金制度も定着しており、2018年度は昨年より3名減の35名の学生さんに給付いたしました。同窓会からは200万円の拠出を行い、大学側と合わせ一人10万円の奨学金となっております。
7. 広報部会では新広報部会長として広瀬常任理事が編集長を務め精力的に、新たな紙面づくりに向けいろいろな企画に力を入れています。既に、皆様のお手元に届いている会報No.81号は大学創立70周年記念号1として編集しております。次の会報は記念号2として地域別オールカミングの開催状況を集める予定です。また、ホームページのリニューアルも実行し新たなホームページが出来上がっておりますのでご確認をお願いします。月一度発行しているメルマガも同様にご意見・ご要望等ございましたら是非ともご連絡願います。
8. 最後に、大学同窓会としての母校支援と年会費納入についてお願いいたします。武蔵学園百周年記念事業推進資金募金については、2007年度からスタートし現在目標額24億円に対し21億3千2百万円の約89%のところまでできております。皆様のご協力にあらためて御礼申し上げます。昨年の白雉たよりの中で山寄学長のいっておられる「地球市民の育成」については冒頭にお話ししたようにその一環としてのグローバル教育が着々と進んでおります。これをますます充実させていくのは留学への支援等奨学金の拡充や優れた教育者の確保等が必要であり同窓会への理解と支援を要

請されております。同窓会としても、武蔵大学の一層の発展に向け皆様のご理解とご支援を従来にもましてお願いいたします。具体的には、ベースとして一番大事なのが、年会費を確実に収めて頂く輪を大きくしていくことです。昨年度は予算を下回り約 679 万円で、プロジェクト 1000 として掲げている 1000 万円には相当距離があります。同窓会本部としても様々なイベントを含め努力してまいりますのでご協力をお願いいたします。年会費の納入方法についても、昨年の総会時にもご意見がありましたコンビニ支払を今年度後半より始めた結果納入者総数は 3,409 名から 395 名増の 3,804 名となり効果が出始めていますので今後に期待しています。年会費とは別に、母校支援の為の募金活動組織として武蔵学園後援会があります。長年にわたりご寄付をいただいている方々への感謝と同時に、まだ後援会へのご寄付をされていない方々には趣旨をご理解の上、僅かな金額でも結構ですのでご支援のほどお願いいたします。今年は大学 70 周年記念地域別オールカミングの記念事業を実行します。続いて 2022 年にはいよいよ武蔵学園 100 周年を迎えることとなりますので大学、高校・中学、各同窓会、学園法人が一致協力し発展に向け努力していくことが大事であります。皆様のご理解とご支援をお願いし私の挨拶とさせていただきます。

以上